

映画で考える 戦争と平和 / 第6回

『ガンジー』授業ガイド

暴力を使わずに社会を変える —— 「従わない。でも、暴力は使わない。」

教員用・指導資料（対象：中学生以上）

🖨️ 本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	暴力を使わずに社会を変える（非暴力・不服従という「行動」の力と難しさ）
教材映画	『ガンジー』（原題 Gandhi／1982年・イギリス、インド／監督：リチャード・アッテンボロー）
対象	中学生以上。映倫Gだが、上映188分と長く、アムリトサル事件など暴力的な場面を含む
時間	標準100分（50分×2）。作品は188分。場面を選んだ部分視聴が現実的
中心概念	植民地支配とインド独立／非暴力・不服従の3つの柱／世論を動かす力／非暴力の限界と課題
ねらい	非暴力・不服従が「何もしないこと」ではなく勇氣ある行動であることを理解し、その力と難しさの両方考える
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／インドと南アフリカの地図／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠️ 暴力場面・宗教対立の扱い

日本の映倫はGですが、アムリトサル事件（1919年の虐殺）など暴力的な場面や、独立後の宗教対立による犠牲が描かれます。

- 上映時間が長いので、場面を選んだ部分視聴を基本にする（塩の行進、暴力を受けても進む場面など）。
- 植民地支配や宗教対立の背景を補い、特定の宗教や民族への偏見につながらないように配慮する。
- ガンディーを完全な「聖人」として単純化せず、非暴力の限界や課題にも目を向ける。
- 宗教的な背景を持つ生徒がいる可能性に配慮し、信仰に関わる発言は強制しない。

📄 レイティング・著作権について

- 日本の映倫はG。ただし配信版・ソフトにより表示が異なる場合があるため、使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 植民地支配とインド独立（予備知識）

ガンディーの歩み

当時のインドはイギリスの植民地でした。**1893年**、南アフリカで若い弁護士ガンディーは、肌の色を理由に列車から降ろされる差別を受け、差別と戦う活動を始めます。**1930年**には、イギリスが塩の製造と販売を独占し税をかけていたことに抗議し、海岸まで長い距離を歩いて自分たちで塩をつくる「塩の行進」を行いました。

独立と、その後

1947年、インドは独立を果たしますが、インドとパキスタンに分かれ、宗教の対立で多くの人が亡くなりました。**1948年**、宗教間の和解を訴え続けたガンディーは、ヒンドゥー教徒の過激派の男に暗殺されました。

💡 なぜ非暴力が「力」になったのか

無抵抗の人々が暴力を受ける様子が世界に伝わると、**支配する側の「正しさ」が揺らぎます**。非暴力は、世界の世論を味方につける方法でもありました。ガンディーの考え方は、アメリカの公民権運動を導いたキング牧師などにも大きな影響を与えています。

非暴力・不服従を考える4つの視点（板書用）

① 不正には従わない

おかしい法律や命令に、行動で「従わない」と示す。

② 暴力は使わない

暴力をふるわれても、やり返さない。

③ 罰は受け入れる

逮捕されても逃げず、不正を多くの人に見せる。

④ 力と難しさ

世界を動かした力と、防ぎきれなかった犠牲。

🎯 この授業の到達目標

非暴力・不服従の考え方を3つの柱で説明でき、映画の場面を根拠に、その力と難しさの両方について自分の意見を述べられる。

4 100分授業の流れ（50分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	「不正に対して、暴力以外で立ち向かう方法はある？」と問う。特集のここまできをふり返る。
10-20分	背景	植民地支配・南アフリカでの差別・塩の行進・独立と分離を年表で確認。
20-48分	映画を観る①	南アフリカの列車の場面、塩の行進（クリップ）。
50-70分	映画を観る②	暴力を受けても前に進む場面、独立後の対立の場面など（厳選）。
70-88分	ワーク記入	非暴力の「力」と「難しさ」を整理し、自分の意見を書く。
88-100分	共有・まとめ	板書「従わない。でも、暴力は使わない。」で締める。

🌱 まとめ

非暴力は、ときに「弱い」「甘い」と言われます。けれど、殴られても前に進み続けることは、大きな勇気を必要とします。一方で、非暴力がすべてを解決できたわけではありません。力と難しさの両方を見つめることが、平和を考える入口になります。

5 映画の背景知識

原題／邦題	Gandhi ／ ガンジー
製作年・国	1982年・イギリス、インド。上映188分。日本公開：1983年。映倫：G
監督・製作	リチャード・アッテンボロー（伝記映画の実現に約20年かけて準備したといわれる）
受賞	アカデミー賞 作品賞・監督賞・主演男優賞など8部門
記録	葬儀の場面には30万人以上のエキストラが参加したとされ、ギネス世界記録にも登録

主なキャストと役柄

- ベン・キングズレー（マハトマ・ガンディー役）：青年期から晩年までを演じ、アカデミー主演男優賞を受賞。特集第4回『シンドラーのリスト』では会計係シュテルンを演じている。

「マハトマ」の意味

名前の前につく「マハトマ」は本名ではなく、「偉大な魂」という意味の尊称です。本名はモーハンダース・カラムチャンド・ガンディーといいます。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. 非暴力は「弱い」方法なのだろうか？

→ 殴られても前に進み続ける場面を根拠に、非暴力が勇気ある「行動」であることに気づかせる。

Q. なぜ非暴力は、支配する側を追いつめることができたのだろうか？

→ 暴力を受ける様子が世界に伝わり、世論が動いたこと。メディアの役割にもふれる。

Q. 非暴力で防げなかったことは何だろう？

→ 独立後の宗教対立と犠牲。「万能ではない」という視点から、平和の難しさを考えさせる。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- 非暴力・不服従を「何もしないこと」と混同せず、行動として説明できているか。
- 非暴力の力と難しさの両方にふれて、自分の意見を述べられているか。
- 特定の宗教や民族への偏見につながる表現になっていないか。
- 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する（家族の戦争体験などに触れる生徒への配慮）。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	1917 命をかけた伝令	一人ひとりの命の重さ	中学生～
2	西部戦線異状なし	戦争を美化しない目	高校生～
3	ダンケルク	生きて帰るという勇氣	中学生～
4	シンドラーのリスト	一人の選択が命を救う	高校生～
5	硫黄島からの手紙	敵にも家族がいる	中学生～
6	ガンジー	暴力を使わずに社会を変える	中学生～
7	ブリッジ・オブ・スパイ	対話と交渉で争いを止める	中学生～
8	ホテル・ルワンダ	見捨てない勇氣	中学生～

8 参考資料（主な出典）

ガンジー 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「ガンジー (映画)」 [https://ja.wikipedia.org/wiki/ガンジー_\(映画\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/ガンジー_(映画))

作品：映画『ガンジー』（1982年、監督リチャード・アッテンボロー）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。